山と花のたより　188号

２０１６年３月２１日　松尾忠

メールアドレス　tadashi6414@smile.ocn.ne.jp

ＨＰ http://yama-to-hana-no-tayori.sakuraweb.com/

続・二上山に咲く花々　②

タニギキョウ(谷桔梗)

キキョウ科タニギキョウ属

キキョウと聞けば夏から秋の花かと思いがちですが、タニギキョウが咲くのは春～夏。小鳥たちの囀りが本格化するころ、谷川べりに群れをなして白い小さな花を咲かせます。花も可愛く、茎や葉もみずみずしくて、小鳥や虫などの動物に食べられてしまうのではと余計な心配をしてしまいます。

花冠の大きさ５～８ミリ。花期は４月～５月

写真は　健生会友の会山歩きクラブ　澤木仁さん

続・二上山に咲く花々　③

シャガ(射干)

アヤメ科アヤメ属

人里に近い湿った林床に群生して咲き誇ります。大昔に中国から入ってきた史前帰化植物。花は目立つのに結実せず、なのに全国的繁殖、など同じ史前帰化植物のヒガンバナと共通の特徴を持っています。名は中国語の「射干」をシャガと読んだものですが、中国での「射干」はヒオウギの事で、この食い違いは古代における漢字導入時のミスだろうとされています。

花期は４月～５月。　　写真は健生会友の会山歩きクラブ　澤木仁さん

桜井の里山を歩く②　　巻向山５６７ｍ

↑ツチグリ

三輪山から東に伸びる山稜でひときわ高い頂が巻向山の南東峰（567m）で、巻向山本峰はその北西方向に離れてあり、奈良山岳会編の「大和・青垣の山々」では、この本峰こそ万葉集で詠われた弓月ケ岳ではないかとの説を紹介しています。

１月下旬に登った時は桜井市立朝倉小学校横から登り、山稜上の辻を越えて北側にある奥不動寺に下り、そこから奇鋒と言われる白山（しろやま）を経て南東峰に登りました。

木の間ごしに大和盆地が見えたりするが、山中では誰一人逢うこともない静かな山歩きでした。

頂上近くでツチグリ（きのこ・ツチグリ科）が見事に外皮を開いて落ちていました。忍者映画で見る手裏剣みたいですね。

桜井の里山を歩く③　三輪山（４６７ｍ）

大和の人々にとって、夕日が沈む神の山が二上山なら、日が昇る東の神の山は三輪山だったのでしょう。大昔から山体そのものが御神体とされ、その御神体を祀る大神（おおみわ）神社には本殿なしとされています。

大神神社の大鳥居と三輪山（同山ＨＰより）→

針金も釘もない登山道

大神神社の北側にある摂社・狭井神社で入山料を払い、「三輪山参拝之証」と書かれた襷を受け取り、杖を借りて登り始めました。結構急登ですが、道はよく整備されています。丸太を使った階段が続きますが、不思議な事に針金や釘など金属製のものが一切使われていないのです。私自身が二上山の登山道修理にボランティアで（というより、勝手に）携わっていますが、杭と丸太とを針金（番線）で結束して固定する方法をとっているので、此処の工法は意外で、強い興味を抱きつつ、注目して歩きました。

↑狭井神社登山口（同山ＨＰより）

さらに驚いたのは、打ち込んである杭の頭がすべて丸く半球状に削ってあるのです。「これはケガ防止のためだろうか、それにしてもその作業量とそれに費やす時間は膨大だろう、果たして必要なことなのか」と、疑問をも感じつつ登りました。

裸足で登る信者さんたち

まもなく、疑問は解消しました。頂上でゆっくりしていると、白装束に身を包んだ女性が登ってきましたが、二月というのに裸足なのです。そして頂上の磐座（いわくら=神が鎮まる場所とされる岩石群）の前にビニールを敷いただけで跪き、祈り始めたのです。

この山の登山道には、敷石の代わりに**直径５０センチ前後の大きな丸太を縦に**埋め込んだ箇所が多くありますが、それも針金無しの階段も、こうした信仰の道だからなのでしょう。

痛そうなカラスザンショウの幹

植物ではイズセンリョウの白い実の連なりが目立ち、ハナミョウガの青々とした葉が多く見られました。特に目を引いたのはカラスザンショウ（ミカン科イヌザンショウ属）の群落で、その幹に密に出ている大きく頑丈そうなトゲ（写真右）は、迂闊に触ろうものなら手痛い傷を負わされそうで、まるで神の山と磐座を衛る直立不動の衛兵のように各所に立っていました。

花が目立ち始めた二上山

葛城市にある「二上山ふるさと公園」ではウメに続いてボケが、さらにミツマタが花を開きました。ミツマタは和紙の原料として著名ですが、これもヒガンバナやシャガと同じく、有史以前に日本に渡ってきた史前帰化植物なのです。　各所にスミレが花を見せ、ショウジョウバカマ、ダンコウバイが咲いています。

↓ボケ

↓ダンコウバイ